

## 【公開文書の作成例】

臨床研究「肝細胞癌患者に対する病変部位別陽子線治療の安全性と有効性の遡及的研究」について

筑波大学附属病院放射線腫瘍科では、標題の臨床研究を実施しております。  
本研究の概要は以下のとおりです。

- ① 研究の目的 肝細胞癌患者に対する陽子線治療の病変部位別の安全性と有効性を調査することを目的とする。
- ② 研究対象者 筑波大学附属病院陽子線治療センターで2001年9月1日から2019年3月31日に陽子線治療を行った肝臓癌患者1426名。
- ③ 研究期間：倫理審査委員会承認後～2022年3月31日まで
- ④ 研究の方法 筑波大学附属病院陽子線治療センターで2001年9月1日から2019年3月31日に陽子線治療を行った肝臓癌患者1431名に対して、後方視的観察研究を行う。局所制御率、全生存率、無増悪生存率をKaplan-Meier法を用いて算出する。有害事象はCommon Terminology Criteria for Adverse Events (CTCAE) Ver.4で評価する。また、脈管への腫瘍浸潤が肝臓癌の治療の有効性に影響を与えている可能性があるため、患者背景と治療効果の関連性についても調査する。
- ⑤ 試料・情報の項目：診療記録等（年齢・性別・肝機能・合併症・腫瘍径・処方線量・照射回数・治療開始日・治療終了日・生存情報・死因・有害事象・再発日等）
- ⑥ 試料・情報の第三者への提供について：該当なし
- ⑦ 試料・情報の管理について責任を有する者  
筑波大学附属病院 助教 飯泉 天志
- ⑨ 本研究への参加を希望されない場合  
患者さんやご家族（ご遺族）が本研究への参加を希望されず、試料・情報の利用又は提供の停止を希望される場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。
- ⑩ 問い合わせ連絡先  
筑波大学附属病院：〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1  
所属・担当者名：放射線腫瘍科・陽子線センター 奥村 敏之・飯泉 天志  
電話：0.29-853-7100 平日9～17時